

添付資料①-1

温室効果ガス排出量の削減効果及び資源循環の効果算出シート算出例
類型①

事業名：〇〇株式会社 廃プラスチック類の油化事業

■該当する類型

類型	①
----	---

■基準シナリオの種別

廃プラスチック類（一般廃棄物）の全国平均の処理

令和7年10月X日

■目次

1	シナリオの概要と機能単位
2	算出範囲
3	インベントリデーター一覧
4-1	算出結果_温室効果ガス排出量の削減効果（製品バスケット法の場合）
4-2	算出結果_温室効果ガス排出量の削減効果（負荷回避法の場合）
5-1	算出結果_資源循環の効果（類型①）※
5-2	算出結果_資源循環の効果（類型②）※
5-3	算出結果_資源循環の効果（類型③）※
6	改訂履歴

※該当する類型の様式のみ作成すること

1.シナリオの概要と機能単位

改訂番号 1 入力日 令和7年10月X日

事業名：〇〇株式会社 廃プラスチック類の油化事業

■該当する類型

■基準シナリオの種別

類型	①
----	---

廃プラスチック類（一般廃棄物）の全国平均の処理

■シナリオの概要と機能単位

記入項目		記入欄	
シナリオ の概要	事業 シナリオ	廃棄物の種類 廃プラスチック類（一般廃棄物）	
		再資源化等の方法 油化事業	
		再生材（複数ある場合は処理割合） 廃棄物の処理量1tあたり再生油0.237t、再生塩酸0.0613t	
	基準 シナリオ	廃棄物の処理方法及び処理割合等 廃プラスチック類（一般廃棄物）の平均的な処理を基準シナリオとする。 具体的には、環境省「廃棄物の広域移動対策検討調査及び廃棄物等循環利用 量実態調査報告書（令和4年度実績）」より焼却（熱回収を含む）：76%、 素材原料（その他製品原料）：19%、燃料化：2%、その他：3%と設定し た。ただし、焼却はすべて日本の平均的なごみ発電の効率でごみ発電された と仮定した。素材原料（その他製品原料）はマテリアルリサイクルと仮定し た。その他は直接埋立と仮定した。	
機能単位	対象 とする 廃棄物	種類と量	廃プラスチック類（一般廃棄物、製品プラスチックとして回収）
		排出源	XX市：XX% XX市：XX%
	生産される再生部品 又は再生資源		再生油、塩酸
温室効果ガス排出量の削減効果の算出方法に負荷回避法を用いる場合に○と入力する			

2.算出範囲

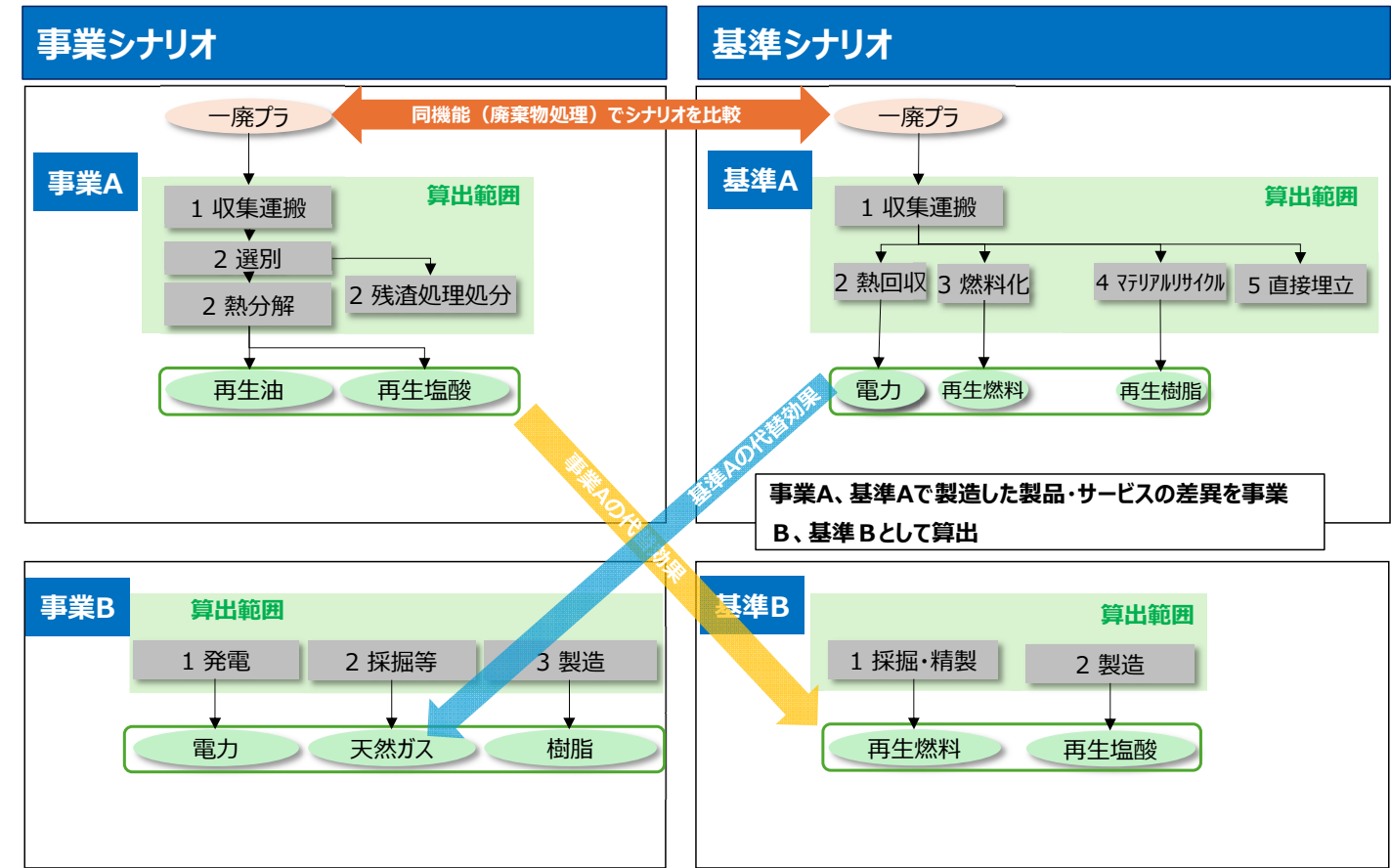
事業名：〇〇株式会社 廃プラスチック類の油化事業(類型①)

■各シナリオのプロセス

- 事業A：事業シナリオの再資源化プロセス
- 事業B：基準シナリオに再資源化や熱回収の工程があり、事業シナリオにはその工程がない場合、その再資源化や熱回収によって得られる製品・サービスの天然資源・プライマリー材由来の製造プロセス
- 基準A：基準シナリオの処理プロセス
- 基準B：事業シナリオの再資源化と同じ製品・サービスの製造におけるプライマリー材での製造プロセス

■算出範囲

- 類型①：A⇒収集運搬から残渣処理処分を含む再資源化等のプロセスまで B⇒プライマリー材由来の製品製造プロセスまで
- 類型②：A⇒収集運搬を除く残渣処理処分を含む再資源化等のプロセスまで B⇒プライマリー材由来の製品製造プロセスまで
- 類型③：A⇒収集運搬を除く残渣処理処分を含む再資源化等のプロセスのうち事業シナリオで設備更新等を実施するプロセスによって影響を受けるプロセス B⇒プライマリー材由来の製品製造プロセスまで



(凡例) □：プロセス ○：製品・サービス 緑色の範囲：算出範囲

【入力上の注意】

- 算出範囲のプロセスは採番をした上で、図中のプロセス凡例に番号とプロセス名を併記すること。
- 算出範囲のプロセスは緑色の四角で囲い、算出範囲を明示すること。
- 算出範囲のプロセスが多いなどの理由で、作図に必要なスペースが不足する場合は算出範囲について別ファイルで提出することを認める。
- 両シナリオの廃棄物と、プロセスが生み出す製品・サービスより等量・等質（機能が等価という意味）であるものをそれぞれ両矢印で示すこと。
- 「算出範囲」が本シートに収まりきらない場合は、別ファイルで提出してもよい。その場合は以下のとおりで提出すること。
 - ・Word、Excel、PowerPoint、PDFのいずれかのファイルによること。
 - ・A4サイズで印刷されることを念頭に置き、10pt以上のフォントを用いて作成すること。
 - ・ファイル名は「【算出範囲】申請者名_事業名.拡張子」とすること。
- 類型②の場合、収集運搬のプロセスがシナリオ間で異なる場合、算出範囲に含め、同一の場合は算出範囲から省略することができる。

3.インベントリデーター一覧

改訂番号 1 入力日 令和7年10月X日

事業名：〇〇株式会社 廃プラスチック類の油化事業(類型①)

(1) 温室効果ガス排出量の削減効果に関するインベントリデーター

①事業シナリオ

カテゴリ	No.		プロセス	区分	数値	単位	活動量等の数値を計算した場合に 用いた値、数式	出典における数値の定義・考え方	出典	出典番号
	プロセス	参照								
事業A	1	a	収集運搬	活動量	300	tkm	1t×300km＝300tkm	事業実態から輸送距離を測定。 廃棄物1tを300km輸送する。	事業実測（事業者ヒアリングより）	1
		b	収集運搬	排出係数	0.0943	kgCO2e/tkm	0.036L/tkm×2.620kgCO2e/L＝0.09kgCO2e/tkm	出典より「10t車・積載率80％・2015 年度基準」の燃費（0.036L/tkm）と 軽油の製造・燃焼にかかる排出係数 （2.620kgCO2e/L）を得て、これを 乗じることで収集運搬の排出係数を 求めた。	経済産業省、国土交通省（2023）ロジ スティクス分野におけるCO2排出量算 定方法共同ガイドラインVer.3.2 p59、27	2 3
	2	a	選別・残渣処理・熱分解	活動量	0.184	kg	—	出典より「選別・残渣処理・熱分 解」にかかるインベントリデータを 取得。このうち「残渣処理（埋 立）」	海洋プラスチック問題対応協議会 （2022）「産業系廃プラスチックの LCA評価」p47(注)	4
		b	選別・残渣処理・熱分解	活動量	0.817	kg	—	出典より「選別・残渣処理・熱分 解」にかかるインベントリデータを 取得。このうち「再資源化製品焼却 （燃料）」	海洋プラスチック問題対応協議会 （2022）「産業系廃プラスチックの LCA評価」p47(注)	4
		c	選別・残渣処理・熱分解	活動量	0.0000129	MJ	—	出典より「選別・残渣処理・熱分 解」にかかるインベントリデータを 取得。このうち「軽油」	海洋プラスチック問題対応協議会 （2022）「産業系廃プラスチックの LCA評価」p47(注)	4
		d	選別・残渣処理・熱分解	活動量	0.0000899	m3	—	出典より「選別・残渣処理・熱分 解」にかかるインベントリデータを 取得。このうち「水道水」	海洋プラスチック問題対応協議会 （2022）「産業系廃プラスチックの LCA評価」p47(注)	4
		e	選別・残渣処理・熱分解	活動量	0.00362	m3	—	出典より「選別・残渣処理・熱分 解」にかかるインベントリデータを 取得。このうち「用水」	海洋プラスチック問題対応協議会 （2022）「産業系廃プラスチックの LCA評価」p47(注)	4
		f	選別・残渣処理・熱分解	活動量	1	t	—	事業実態から廃プラスチック類の処 理量1tとした。	事業実測（事業者ヒアリングより）	1
		g	選別・残渣処理・熱分解	排出係数	2,280	kgCO2e/t	—	出典より「選別・残渣処理・熱分 解」にかかる温室効果ガス排出量を 取得。 （残渣処理（埋立）、再資源化製品 焼却（燃料）、軽油、水道水、用水 の合計に対する排出係数。	海洋プラスチック問題対応協議会 （2022）「産業系廃プラスチックの LCA評価」p47(注)	4
事業B	1	a	発電	活動量	916	kWh	0.75t×29,300MJ/t×15％÷ 3.6MJ/kWh＝916kWh	XX市ヒアリングより発電効率15％と いう情報を得た。また、資源エネル ギー庁「総合エネルギー統計」より 廃プラスチック類の標準発熱量とし て29.30MJ/kgを得た。また、②基準 A-2aより廃プラスチックの熱回収量 0.75t。	XX市ヒアリング 資源エネルギー庁「総合エネルギー統 計」「固有単位表」シートFC11	5 6
		b	発電	排出係数	0.423	kgCO2e/kWh	—	電気事業者の排出係数の平均値を取 得。	環境省「温室効果ガス排出量 算定・報 告・公表制度 電気事業者別排出係数一 覧 令和7年提出用」p18	7
	2	a	採掘等	活動量	0.01071	t	0.02t×29.3MJ/kg÷54.7MJ/kg＝ 0.01071t	資源エネルギー庁「総合エネルギー 統計」より再生燃料と輸入天然ガス （LNG）の標準発熱量（再生燃料： 29.3MJ/kg、LNG：54.7MJ/kg）を 取得。②基準A-3aより再生燃料 （0.02t）と標準発熱量が等しい天然 ガスの量を算出。	事業実測、資源エネルギー庁「総合エ ネルギー統計」「固有単位表」シート FC11、AU11	6
		b	採掘等	排出係数	168	kgCO2e/t	—	「5産連表DB>石炭・原油・天然ガ ス（71101）」より排出係数を取得。	環境省（2025）「サプライチェーンを 通じた組織の温室効果ガス排出量等の 算定のための排出原単位データベース Ver3.5」「5産連表DB」シートD104	8
	3	a	製造	活動量	0.190	t	—	樹脂と再生樹脂を重量で比較し、② 基準A-4aより再生樹脂0.19tが同量の 樹脂を代替すると仮定。	事業実測（環境省「廃棄物の広域移動 対策検討調査及び廃棄物等循環利用量 実態調査報告書（令和4年度実績）」 p14参照）	9
		b	製造	排出係数	1,984	kgCO2e/t	—	樹脂の製造	海洋プラスチック問題対応協議会 （2019）「プラスチック製容器包装再 商品化手法およびエネルギーリカバ リーの環境負荷評価（LCA）」P.44 （表5-22）	10

【入力上の注意】

- ・「活動量等の数値を計算した場合に用いた値、数式」には、活動量に影響する収率、機器の処理能力等の条件があり、それらを掛け合わせて活動量等を算出した場合に、計算に用いた元の数値と計算式を入力する。
- ・「出典における数値の定義・考え方」には、出典におけるデータの範囲（排出係数の例：鉄鋼製品の製造/ データの範囲： 鉄鉱石の採掘、輸送、製鉄、製鋼、鑄造、圧延など）、設定条件（例：データ整備をおこなった地域、対象の技術、データのばらつき等データ採用にあたり留意するべき事項、など）等を明記すること。
- ・活動量を申請者自身の測定値より算出に用いる場合はガイドライン4.1.4を参照し、データの品質についても留意すること。（具体的には、データを測定した期間、データのばらつき・統計的な確からしさに関して記述すること）
（実測値を算出に用いる例：あるプロセスについて、廃棄物1t当たりの電力消費量を計算する場合/ 〇〇〇年〇月～〇〇〇年〇月（12か月間）の〇〇プロセスの消費電力量の合計値を配電盤で計測した（XXXkWh）。同期間の当該プロセスの廃棄物処理量（YYYt）で消費電力量を割り算することで廃棄物1t当たりの電力消費量を算出した。
XXX kWh / YYY t = ZZZ kWh
なお、〇〇〇年〇月～〇〇〇年〇月の月ごとの廃棄物1t当たりの電力消費量は平均値±5%の範囲内に収まることを確認済み）
- ・「出典における数値の定義・考え方」にて、他のインベントリデータを参照する場合は、下記のルールにて参照番号を付記して記載のこと。
記載例：②基準A-3a
＝②基準シナリオ カテゴリ： **基準A**、プロセス・参照番号： **3a** を示す。
- ・「No./プロセス」には、「2.算出範囲」シートにて、フロー記載のプロセス凡例と同じプロセス名、番号を用いること。
- ・「プロセス」には、「2.算出範囲」シートのフローに記載のプロセス凡例の名称と同じものを記載のこと。

(注)本入力例では選別・残渣処理・熱分解プロセスについて処理段階ごとに分けた排出係数を計算できなかったため、まとめた排出係数を算出に用いている。本来は、2a～2eの活動量に対応するそれぞれの排出係数を算出に用いることとなる。

②基準シナリオ

カテゴリ	No.		プロセス	区分	数値	単位	活動量等の数値を計算した場合に 用いた値、数式	出典における数値の定義・考え方	出典	出典番号
	プロセス	参照								
基準A	1	a	収集運搬	活動量	50.0	tkm	1t×50km=50tkm	XX市ヒアリングから一般廃棄物の平均輸送距離として50kmと仮定。 廃棄物1tを50km輸送する。	XX市ヒアリング	5
		b	収集運搬	排出係数	0.0943	kgCO2e/tkm	0.036L/tkm× 2.620kgCO2e/L=0.09kgCO2e/tkm	出典より「10t車・積載率80%・2015年度基準」の燃費（0.036L/tkm）と軽油の製造・燃焼にかかる排出係数（2.620kgCO2e/L）を得て、これに乗じることで収集運搬の排出係数を求めた。	経済産業省、国土交通省（2023）ロジスティクス分野におけるCO2排出量算定方法共同ガイドラインVer.3.2 p59、27	2 3
	2	a	熱回収	活動量	0.760	t	1t×76%=0.76t	廃プラスチック類（一般廃棄物）の熱回収割合	環境省「廃棄物の広域移動対策検討調査及び廃棄物等循環利用量実態調査報告書（令和4年度実績）」p14	9
		b	熱回収	排出係数	2,710	kgCO2e/t	—	廃プラスチック類の焼却にかかる排出係数	海洋プラスチック問題対応協議会（2019）「プラスチック製容器包装再商品化手法およびエネルギーリカバリーの環境負荷評価（LCA）」p90	11
	3	a	燃料化	活動量	0.02	t	1t×2%=0.02t	廃プラスチック類（一般廃棄物）の燃料化割合	環境省「廃棄物の広域移動対策検討調査及び廃棄物等循環利用量実態調査報告書（令和4年度実績）」p14	9
		b	燃料化	排出係数	0.109	kgCO2e/t	—	廃プラスチック類の燃料化にかかる排出係数	海洋プラスチック問題対応協議会（2019）「プラスチック製容器包装再商品化手法およびエネルギーリカバリーの環境負荷評価（LCA）」p90	11
	4	a	マテリアルリサイクル	活動量	0.190	t	1t×19%=0.19t	廃プラスチック類（一般廃棄物）のマテリアルリサイクル割合	環境省「廃棄物の広域移動対策検討調査及び廃棄物等循環利用量実態調査報告書（令和4年度実績）」p14	9
		b	マテリアルリサイクル	排出係数	2,300	kgCO2e/t	—	廃プラスチック類のマテリアルリサイクルにかかる排出係数	海洋プラスチック問題対応協議会（2019）「プラスチック製容器包装再商品化手法およびエネルギーリカバリーの環境負荷評価（LCA）」p44	10
	5	a	直接埋立	活動量	0.03	t	1t×3%=0.03t	廃プラスチック類（一般廃棄物）の直接埋立割合	環境省「廃棄物の広域移動対策検討調査及び廃棄物等循環利用量実態調査報告書（令和4年度実績）」p14	9
		b	直接埋立	排出係数	2,408	kgCO2e/t	—	出典より廃棄物の埋立処理の排出係数の平均値を取得。	環境省（2025）「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出量等の算定のための排出原単位データベースVer3.5」「8廃棄物【種類・処理方法別】」シートL128	12
基準B	1	a	採掘・精製	活動量	0.237	t	—	再生油0.237tが石油製品0.237tを代替したと仮定。	海洋プラスチック問題対応協議会（2022）「産業系廃プラスチックのLCA評価」p46	13
		b	製造	活動量	0.0613	t	—	塩酸(10%)0.0613tが同量の塩酸(10%)を代替したと仮定。	海洋プラスチック問題対応協議会（2022）「産業系廃プラスチックのLCA評価」p46	13
		c	採掘・精製、製造	排出係数	1,120	kgCO2e/t	—	a,b合計の排出係数について出典より取得したもの。	海洋プラスチック問題対応協議会（2022）「産業系廃プラスチックのLCA評価」p48	14

(2) 資源循環の効果に関するインベントリデータ

③事業シナリオ

カテゴリ	No.	再生材	数値	単位	活動量等の数値を計算した場合に 用いた値、数式	出典における数値の定義・考え方	出典	出典番号
事業A	1	再生油	0.237	t	—	油化事業の産出物	海洋プラスチック問題対応協議会 (2022)「産業系廃プラスチックの LCA評価」p46	13
	2	再生塩酸	0.0613	t	—	油化事業の産出物	海洋プラスチック問題対応協議会 (2022)「産業系廃プラスチックの LCA評価」p46	13

④基準シナリオ

カテゴリ	No.	再生材	数値	単位	活動量等の数値を計算した場合に 用いた値、数式	出典における数値の定義・考え方	出典	出典番号
基準A	1	再生燃料	0.020	t	—	燃料化によって製造された再生燃料 の量	環境省「廃棄物の広域移動対策検討調 査及び廃棄物等循環利用量実態調査報 告書（令和4年度実績）」p14	9
	2	再生樹脂	0.190	t	—	マテリアルリサイクルによって製造 された再生樹脂の量	環境省「廃棄物の広域移動対策検討調 査及び廃棄物等循環利用量実態調査報 告書（令和4年度実績）」p14	9

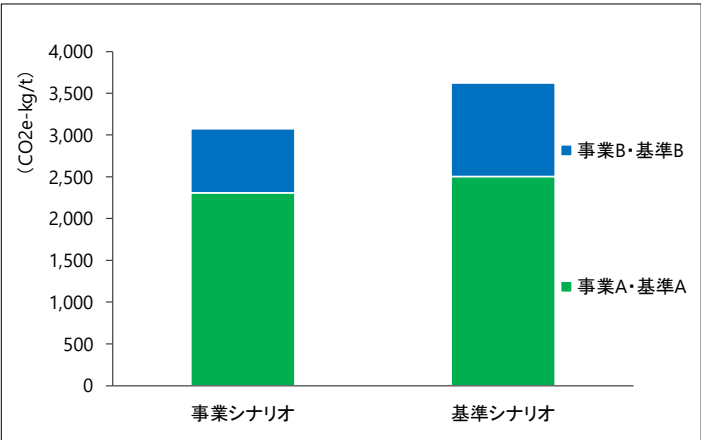
4-1.算出結果_温室効果ガス排出量の削減効果（製品バスケット法の場合）

事業名：〇〇株式会社 廃プラスチック類の油化事業(類型①)

(1) 温室効果ガス排出量の削減効果

①1t当たりの削減量

カテゴリ	項目	排出量 (CO ₂ e-kg/t)
事業A	事業シナリオの再資源化プロセス	2,308
事業B	基準シナリオに再資源化や熱回収の工程があり、事業シナリオにはその工程がない場合、その再資源化や熱回収によって得られる製品・サービスの天然資源・プライマリー材由来の製造プロセス	766
基準A	基準シナリオの処理プロセス	2,501
基準B	事業シナリオの再資源化と同じ製品・サービスの製造におけるプライマリー材での製造プロセス	1,120
温室効果ガスの排出削減量 (基準A+基準B) -(事業A+事業B)		547



(2) 算出結果の詳細

活動量および排出係数については、「1.インベントリデーター一覧」に出典、算出方法等を記載すること。
フロー図上のカテゴリとプロセスのNo.を合わせて、記載すること。

①事業シナリオ

カテゴリ	No.	プロセス	活動量				排出係数				排出量 (CO ₂ e-kg/t)
			参照No.	項目名	数値	単位	参照No.	排出係数名	数値	単位	
事業A	1	収集運搬	a	トラック輸送	300	tkm	b	トラック輸送	0.0943	kgCO ₂ e/tkm	28
	2	選別・残渣処理・熱分解	f	選別・残渣処理・熱分解	1.00	t	g	選別・残渣処理・熱分解	2,280	kgCO ₂ e/t	2280
合計											2,308

カテゴリ	No.	プロセス	活動量				排出係数				排出量 (CO ₂ e-kg/t)
			参照No.	項目名	数値	単位	参照No.	排出係数名	数値	単位	
事業B	1	発電	a	発電	916	kWh	b	発電	0.423	kgCO ₂ e/kWh	387
	2	採掘等	a	採掘等	0.01071	t	b	採掘等	168	kgCO ₂ e/t	2
	3	製造	a	製造	0.190	t	b	製造	1,984	kgCO ₂ e/t	377
合計											766

②基準シナリオ

カテゴリ	No.	プロセス	活動量				排出係数				排出量 (CO ₂ e-kg/t)
			参照No.	項目名	数値	単位	参照No.	排出係数名	数値	単位	
基準A	1	収集運搬	a	トラック輸送	50.0	tkm	b	トラック輸送	0.0943	kgCO ₂ e/tkm	5
	2	熱回収	a	熱回収	0.760	t	b	熱回収	2,710	kgCO ₂ e/t	2060
	3	燃料化	a	燃料化	0.0200	t	b	燃料化	0.109	kgCO ₂ e/t	0.002
	4	マテリアルリサイクル	a	マテリアルリサイクル	0.190	t	b	マテリアルリサイクル	2,300	kgCO ₂ e/t	437
合計											2,501

カテゴリ	No.	プロセス	活動量				排出係数				排出量 (CO ₂ e-kg/t)
			参照No.	項目名	数値	単位	参照No.	排出係数名	数値	単位	
基準B	1	採掘・精製	a	採掘・精製	0.24	t	X	採掘・精製	X.XX	kgCO ₂ e/t	X.XX
	2	製造	b	製造	0.06	t	X	製造	X.XX	kgCO ₂ e/t	X.XX
合計											1,120

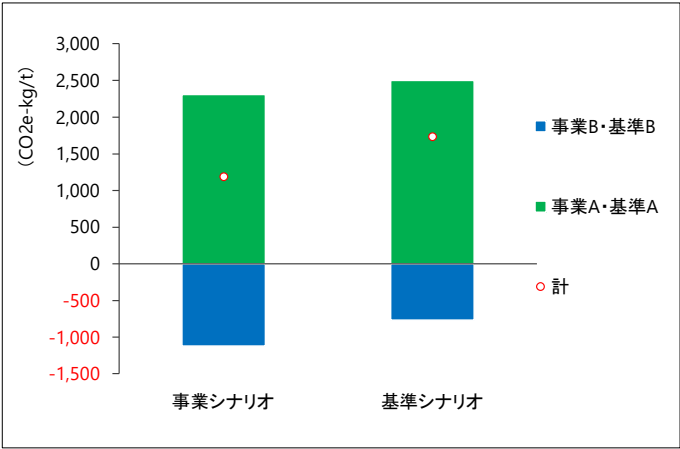
4-2.算出結果_温室効果ガス排出量の削減効果（負荷回避法の場合）

事業名：〇〇株式会社 廃プラスチック類の油化事業(類型①)

(1) 温室効果ガス排出量の削減効果

①1t当たりの削減量

カテゴリ	項目	排出量 (CO ₂ e-kg/t)
事業A	事業の取組実施による温室効果ガス排出量	2,308
基準B	事業シナリオの再資源化と同じ製品の製造における、プライマリー材製造工程での温室効果ガス排出量(負の排出量として計上)	-1,120
事業シナリオ		1,188
基準A	廃棄物の適正処理、再資源化又は熱回収の工程での温室効果ガス排出量	2,501
事業B	基準シナリオで再資源化や熱回収が行われていたと設定した場合に、従来の処理が行われなくなってしまうことを補うために必要な工程での温室効果ガス排出量（負の排出量として計上）	-766
基準シナリオ		1,735
温室効果ガス排出量の削減効果 (基準A+事業B)－(事業A+基準B)		547



(2) 算出結果の詳細

活動量および排出係数については、「1.インベントリデーター一覧」に出典、算出方法を記載すること。
フロー図上のカテゴリとプロセスのNo.を合わせて、記載すること。

①事業シナリオ

カテゴリ	No.	プロセス	活動量				排出係数				排出量 (CO ₂ e-kg/t)
			参照No.	項目名	数値	単位	参照No.	排出係数名	数値	単位	
事業A	1	収集運搬	a	トラック輸送	300	tkm	b	トラック輸送	0.0943	kgCO ₂ e/tkm	28
	2	選別・残渣処理・熱分	a	選別・残渣処理・熱	1	t	b	選別・残渣処理・熱分解	2,280	kgCO ₂ e/t	2280
合計											2,308

カテゴリ	No.	プロセス	活動量				排出係数				排出量 (CO ₂ e-kg/t)
			参照No.	項目名	数値	単位	参照No.	排出係数名	数値	単位	
基準B	1	採掘・精製	a	採掘・精製	0.237	t	X	採掘・精製	X.XX	kgCO ₂ e/t	X.XX
	2	製造	b	製造	0.061	t	X	製造	X.XX	kgCO ₂ e/t	X.XX
合計											1,120

②基準シナリオ

カテゴリ	No.	プロセス	活動量				排出係数				排出量 (CO ₂ e-kg/t)
			参照No.	項目名	数値	単位	参照No.	排出係数名	数値	単位	
基準A	1	収集運搬	a	トラック輸送	50.0	tkm	b	トラック輸送	0.0943	kgCO ₂ e/tkm	5
	2	熱回収	a	熱回収	0.760	t	b	熱回収	2,710	kgCO ₂ e/t	2060
	3	燃料化	a	燃料化	0.020	t	b	燃料化	0.109	kgCO ₂ e/t	0.002
	4	マテリアルリサイクル	a	マテリアルリサイクル	0.190	t	b	マテリアルリサイクル	2,300	kgCO ₂ e/t	437
合計											2,501

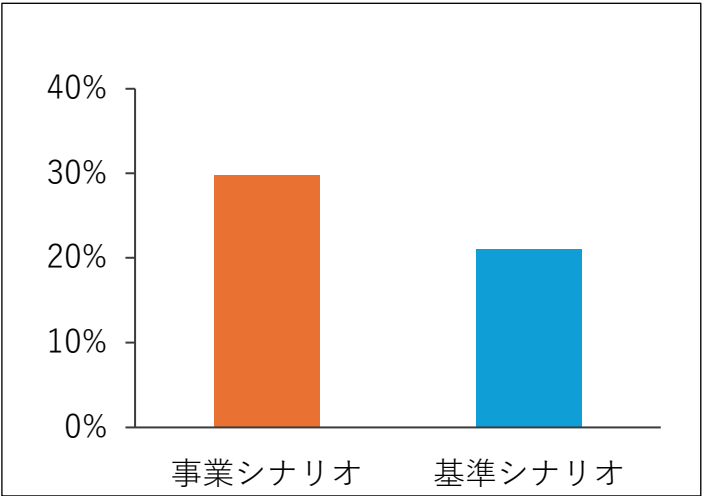
カテゴリ	No.	プロセス	活動量				排出係数				排出量 (CO ₂ e-kg/t)
			参照No.	項目名	数値	単位	参照No.	排出係数名	数値	単位	
事業B	1	発電	a	発電	916	kWh	b	発電	0.423	kgCO ₂ e/kWh	387
	2	採掘等	a	採掘等	0.01071	t	b	採掘等	168	kgCO ₂ e/t	2
	3	製造	a	製造	0.190	t	b	製造	1,984	kgCO ₂ e/t	377
合計											766

事業名：〇〇株式会社 廃プラスチック類の油化事業(類型①)

（１）資源循環の効果

①廃棄物1t当たりの資源循環の効果

項目	事業シナリオ	基準シナリオ
廃棄物の処理量（t）	1.00	1.00
再生材供給量（t）	0.298	0.210
再生材供給量/ 廃棄物の処理量（％）	30%	21%
資源循環の効果 ＝事業シナリオ－基準シナリオ		9%



（２）算出結果の詳細

活動量等については、「3.インベントリデータ一覧」に出典、算出方法等を記載すること。

①事業シナリオ

No.	再生材供給量（t）		
	項目名	数値	単位
1	再生油	0.237	t
2	再生塩酸	0.061	t
			t
合計		0.298	t

②基準シナリオ

No.	再生材供給量（t）		
	項目名	数値	単位
1	再生燃料	0.020	t
2	再生樹脂	0.190	t
			t
合計		0.210	t